

平成26年1月24日（金）

平成25年度 全学FD 推進プログラム 第4回FD・SDセミナー

# 図書館を利用した学修支援の 実践における成果と課題

～Study Support Spaceの実践より～

徳島大学附属図書館 学術情報図書課  
利用支援係長 佐々木奈三江  
雑誌情報係 亀岡由佳



# 目次

- 今なぜ図書館で学修支援か
- 徳島大学附属図書館の学修支援  
～ラーニング・コモンズ～
- Study Support Space(SSS)について
- 学修支援のさらなる充実を目指して
- 図書館でできること

# 今なぜ図書館で学修支援か

# 大学教育の変化

## ● 大学図書館と関わるポイントは2つ

- 単位の実質化
- アクティブ・ラーニングへの転換の必要性

「教育振興基本計画（平成25年6月閣議決定）等において、学生が主体的に課題解決に取り組む能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要とされ、そのための取組として、学生の主体的な学習のベースとなる図書館の機能強化・・・を促進」<sup>(1)</sup>

→ 大学図書館は、教育面でより積極的に関与することを求められている。

具現化＝ラーニング・コモンズ

# 徳島大学附属図書館の学修支援 ～ラーニング・コモンズ～

# ラーニング・コモンズとは・・・



## ● 文部科学省（2010）<sup>(2)</sup>

- 複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。



## ● 徳島大学附属図書館<sup>(3)</sup>

- 自由にディスカッションしたり、コミュニケーションを図ったりしながら自主的・創造的に学習に取り組める場所



# 施設について

2009年 耐震改修によりリニューアル・オープン

1階をコミュニケーション可能なゾーン、2階をサイレント・ゾーンとゾーニング

2011年1月 1階のレイアウトを変更し、「ラーニング・commons」として運用開始

## 図書館本館1階 ラーニング・commonsのご案内

このたび図書館本館1階は、ラーニング・commonsとして生まれ変わりました！

### 生まれ変わりのポイント その1

#### <1階ホールで最新情報を提供>

- 一般読（タウン誌、女性誌等）、新聞を、1階ブラウジングコーナー（旧：グループワークコーナー）から1階ホールに移しました。

※一般読は翌日（図書館が休みの時は次の開館日）まで借りることができます。

- 柱巻き書架を設置し、新しく図書館で購入した図書や、イベントで紹介された図書、ミニ展示などを行うスペースとしました。



### 生まれ変わりのポイント その2

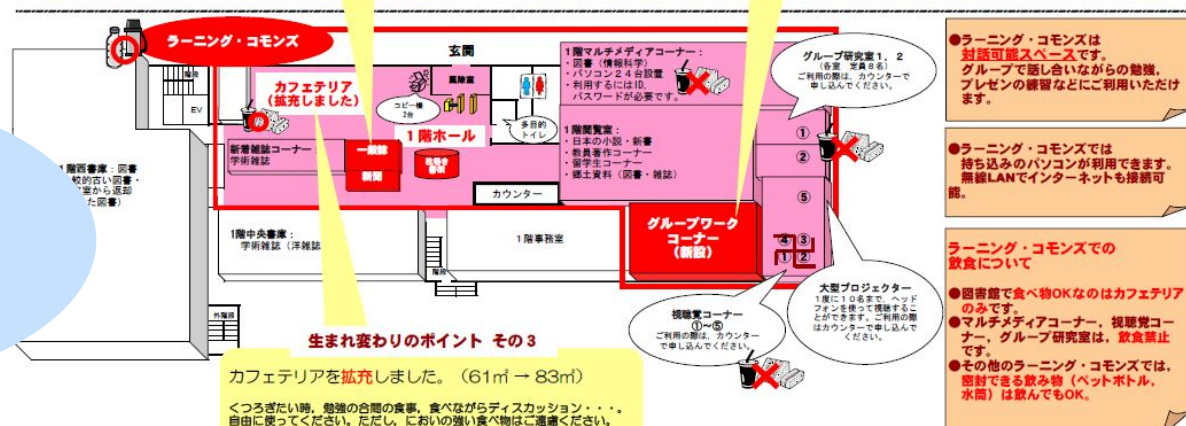
#### <グループワークコーナーの設置>

- グループ学習、共同作業を伴う講義などを行うスペース確保のため、ブラウジングコーナーを「グループワークコーナー」に変更しました。
- レイアウト自在のテーブル、イスを設置しています。
- 利用の申込は不要。もちろん、一人でもご利用いただけます。
- 講義で利用することも出来ます。占有する場合は、3日前までにお申し込みください。予約は1階カウンターもしくは電話、メールでお願いします。



<設備>  
テーブル：12台  
イス：24脚  
大型プロジェクター（視聴覚コーナー⑤）  
ホワイトボードつきスクリーン（間仕切り）：2台

ラーニング・commons  
オープンのチャシ

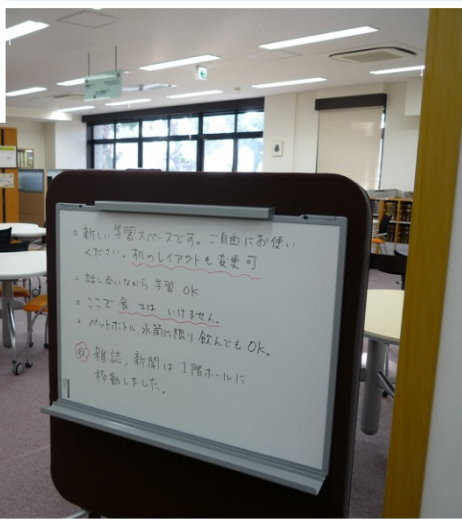


ラーニング・commonsの  
基本コンセプト

「自由にディスカッションしたり、コミュニケーションを図ったりしながら自主的・創造的に学習に取り組める場所」



2012年1月に、  
「グループワークコーナー」を設置。  
ここでは、ディスカッションしながら自由  
にグループ学習ができる。プレゼンな  
ども可能。



グループ研究室（2室）



マルチメディアコーナー（1階）  
周りには関連書籍も配置



カフェテリアは玄関入ってすぐの場所  
2012年1月、座席を32席→48席に拡充

1階で一般雑誌や新聞、視聴覚資料などを利用できる



施設だけでは「ラーニング・コモンズ」とは言えず、  
その中で学習支援が行われること、学習サポートなどの  
人的支援や学内の学習支援機関との連携が重要な要素と  
なる。

# 人的支援について：2009～2012の動き

## ● ラーニング・コモンズ運用開始時の人的支援の状況は・・・

- 学習サポートスタッフ → 人件費確保できず
- 学習支援室との連携 → 打診したが不調
- ボランティアについて教員に相談
- 「ライブラリー・ワークショップ」誕生（2010）  
→ 読書推進活動

・ 人的支援や学内の学習支援機関との連携は不十分。

**箱モノの「ラーニング・コモンズ」ではなく、  
本来の意味での「ラーニング・コモンズ」にするために、  
各所との連携を模索**

# 人的支援について：2012～2013の動き

## ○ FD参画

- ラーニング・コモンズが実質的な効果をあげるためには、学内の学習支援の文脈の中で活用される必要がある。

## ○ 徳島大学のFDの定義<sup>(4)</sup>

**本学の教育理念・教育目標を実現するための取組みであり、教職協働の下に学生の参画を得て、組織的な教育改善・改革を推進し、その妥当性・有効性を不断に検証することにより更なる改善を図る活動**

## ○ まずは学生FDとの関わりを

- 組織としてではなく、個人的に繋ぎcreateと協働

# FDへの参画 ～イベント実施～

- FD・SDセミナー「図書館を利用した学習支援」への登壇  
(2012/11/30) <sup>(5)</sup>
  - 教員から、図書館で学習サポートを行ってみたいとの申し出があり、週1回ボランティアで試行的に開始
- スタディレスキューWeeeeeekの開催<sup>(6)</sup>
  - 繋ぎcreateの企画により、後期試験前の2013/1/21～25に実施
  - 「図書館1階のラーニング・コモンズを利用して、学生が学習の疑問点やわからない所を教員に直接質問することで解決し、学習内容を定着させることができる相談窓口を提供するもの」
  - NHKの取材で、認知度が高まる。図書館内でも評価があがる。
  - 常設できないか？→SSSへ発展

# Study Support Space(SSS)

## ● SSSとは

- 教員・大学院生が、図書館1階ピア・サポートルームで常設の学習支援を行う企画
- 2013年4月12日よりオープン
- 場所は、図書館で空き部屋となった事務室を流用
- 徳島大学附属図書館，全学共通教育センター，学務部教育企画室，学務部教育支援課が後援
- SSS企画チーム（繋ぎcreate）による運営



# SSS企画チーム

## (2014年1月より「学びサポート企画部」)

### ● チームの理念

- 大学生の日々の学習における躓きに対して、学習支援を行うとともに、学習をするために必要な基本知識・技能を習得する場や機会を創ることで、大学生の学習スタイルの向上、改善を行う。

### ● スタッフ構成

- 学生3名、教員1名、職員2名（2014年1月現在）

### ● スタッフの仕事

- アドバイザーへの協力依頼、時間割の調整、相談内容の記録・分析、SSSの広報活動

カウンター横に設置した  
時間割表





# SSS学習支援内容・アドバイザー（12・1・2月）

2013年11月27日現在

時間帯	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
14:30 ↓ 15:30	<b>数学</b> 大沼 正樹 先生	<b>線形代数・勉強の仕方</b> 吉田 博 先生	<b>情報リテラシー・レポートの書き方</b> 金西 計英 先生	<b>物理学・レポートの書き方</b> 斉藤 隆仁 先生	
16:00 ↓ 17:00	<b>レポートの書き方</b> 出口 桜子 さん	<b>英語</b> 宮田 政徳 先生	<b>数学</b> 大淵 朗 先生		<b>心理学・レポートの書き方</b> 野間 あずさ さん
17:00 ↓ 18:00	<b>物理学・レポートの書き方</b> 古屋 玲 先生	<b>物理学・他</b> 小山 晋之 先生	<b>文献の探し方</b> 佐々木奈三江 さん	<b>英語・留学相談</b> 福田 STEVE 先生	<b>化学</b> 森賀 俊広 先生
18:00 ↓ 19:00	<b>線形代数・勉強の仕方</b> 吉田 博 先生		<b>物理学</b> 日置 善郎 先生	<b>基礎生物学・レポート相談</b> 佐藤 高則 先生	<b>線形代数・勉強の仕方</b> 吉田 博 先生

★上記の時間割とは一部異なる場合があります。SSSを利用する場合は、以下のいずれかの方法で最新の情報をご確認ください。

①ピア・サポートルーム前の時間割掲示板、②徳島大学附属図書館ホームページ

**気軽に質問に来てくださいね！！**

Study Support Space 繋ぎcreate



# SSSの実績(7)

- アドバイザーはすべてボランティアとして協力  
教員12名、図書館職員 1 名，大学院生2名（2013年後期）
- 2013年4月～12月末まで平日に毎日実施  
実施日数は131日
- 累計相談者数は314名（前期は210名）
- 対応科目は数学、物理、化学、生物、  
英語、レポートの書き方、他

ピア・サポートルームの様子

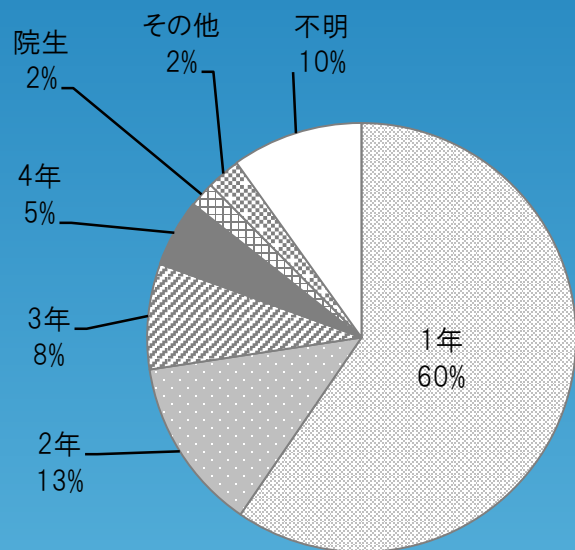


## SSS利用者の内訳（人）

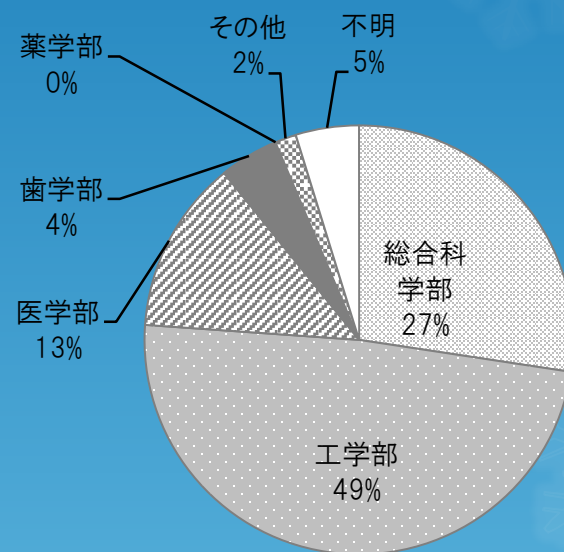
	総合科学部	工学部	医学部	歯学部	薬学部	その他	不明	合計
1年	44	93	40	10	0	0	0	187
2年	22	17	0	0	0	0	2	41
3年	10	15	0	0	0	0	0	25
4年	6	9	1	0	0	0	0	16
院生	0	6	0	0	0	0	0	6
その他	1	0	0	1	0	5	1	8
不明	3	13	0	3	0	0	12	31
合計	86	153	41	14	0	5	15	314

集計期間：2013.4.12～2013.12.20

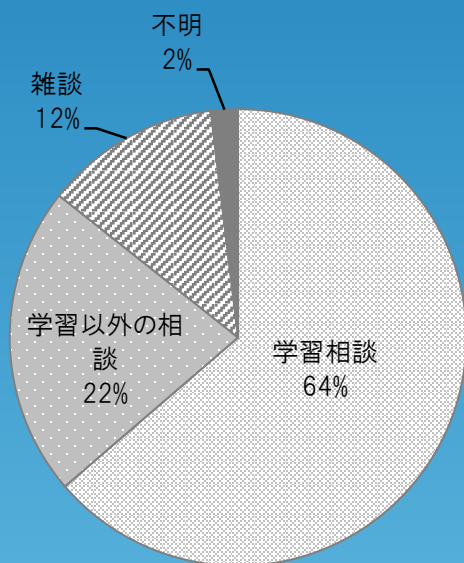
## 学年別相談者の割合（％）



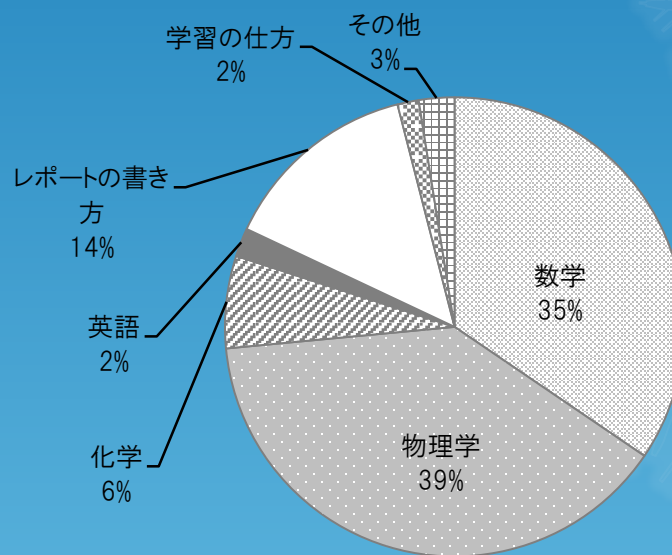
## 学部別相談者の割合（％）

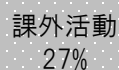
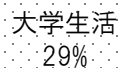
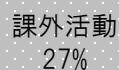
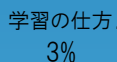


## 相談内容の種類別の割合 (%)



## 学習相談のうち内容別の割合 (%)





日時：【 月 日 ( ) : ~ : 】

アドバイザー：【                      】

No	学部・学科・学年	内容
1		
	相談者数 名	
2		
	相談者数 名	
3		
	相談者数 名	
4		
	相談者数 名	
5		
	相談者数 名	
○SSS 運営チームへのメッセージ          		
○ _____ より _____ さんへメッセージ		



# SSSの評価

- 7月に、図書館アンケートの一環として調査
  - SSSの認知度, SSSで行ってほしい支援内容
- 8月に、アドバイザーに対してアンケート実施
  - SSSの改善点, 学生の様子, 学生にとっての意義, アドバイザーにとっての意義, 広報活動, その他
- 11月に、SSSに対するアンケート実施
  - SSSの認知度, 利用の有無, 利用回数, 相談内容, 満足度, SSSへの要望

# 図書館アンケートの結果（7月）

## ● 対象：図書館利用者のみ

配布500, 回収295（回収率59%）

### ➤ 認知度

SSS（Study Support Space）を知っていますか？また、利用したことはありますか？					
	知っている	知っているが 利用したことは ない	知らない	回答無	計
回答	19	137	98	18	272
	7.0%	50.4%	36.0%	6.6%	100.0%

# 図書館アンケートの結果（7月）



## ●SSSで行ってほしい支援内容（複数回答可）

SSSで行ってほしい支援内容は何ですか																
	レポートの書き方	大学での勉強の仕方	文献の探し方	数学	物理	化学	生物	統計	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	TOEIC対策	定期試験対策	その他	計
回答	80	48	26	17	17	15	10	16	21	7	3	7	51	69	4	391
	20.5%	12.3%	6.6%	4.3%	4.3%	3.8%	2.6%	4.1%	5.4%	1.8%	0.8%	1.8%	13.0%	17.6%	1.0%	100.0%

### ➤ 自由記述

#### 進路相談

卒論をかくにあたってのアドバイス

社会人も参加，有料で可，旅行，語学，開放実践センタ。  
夜間の学生にはほぼ活用できないのが残念。

民間の外部の人向けのSSSなんかもあって良いと思う。



# アドバイザーへのアンケートの結果（8月）

## ● SSSの改善点

- 設備や環境に関する改善の要望。設置場所やネットワーク環境など
- 広報

## ● 学生にとっての意義

- 気軽に相談できる場，教員との関係構築，意義はわからない（相談が少ない）

## ● アドバイザーにとっての意義

- 学生の様子がわかる，授業改善につながる，他の授業の様子が分かる
- 学習に対する意識の向上（大学院生）

## ● その他

- 安易な質問窓口にならないように。まずは自分で考えること。

# SSSアンケート結果（11月）

- アドバイザーが担当する授業，アドバイザーではない教員が担当する授業，および図書館でアンケート配布。  
このうち，1～2年生（580人）を対象に分析。

分析に使用する学生アンケートの回答者の内訳（人）

	総合科学 部	工学部	医学部	歯学部	薬学部	合計
1年	133	152	179	38	24	526
2年	16	32	0	1	5	54
合計	149	184	179	39	29	580

# SSSアンケート結果（11月）

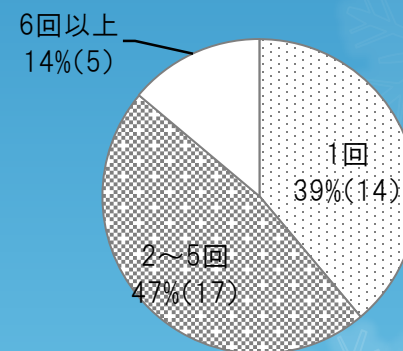
● 認知度 55.9%（324名/580名）

## SSSを知った経緯

ポスター	友人から	図書館のHP	図書館に訪れた時に	授業中にアドバイザーから	その他
31.2%	7.2%	4.0%	53.8%	41.9%	0.9%

● 利用率 11.1%（36名／324名）

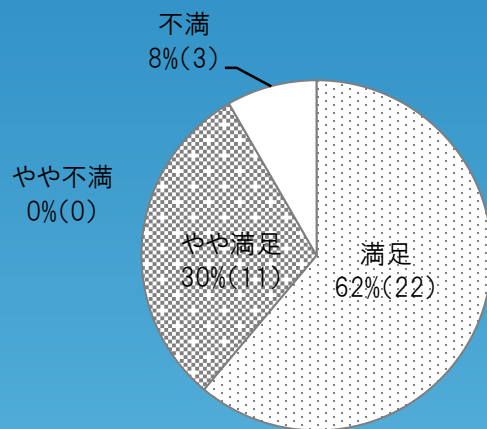
リピーター率は61%





# SSSアンケート結果（11月）

## ● 満足度



## SSSを利用して良かった点（自由記述）

良かった点	件数
気軽に相談できたこと	8
説明がわかりやすかったこと	6
アドバイザーとの関係ができたこと	5
アドバイザーと幅広い話ができたと	3
アドバイザーが優しいこと	3
疑問が解決できたこと	3
その他	1

# SSSアンケート結果（11月）

## ● 利用したことがないのは何故か？

	SSSを知らない	相談したいことがない	アドバイザーに話しかけにくい	相談したい科目が時間割に入っていない	時間が合わない	実施している部屋に入りにくい	その他
総合科学部	31.0	31.7	12.7	13.4	28.9	23.9	2.1
工学部	47.3	33.5	9.0	7.2	15.6	13.8	0.0
医学部	45.6	30.2	9.5	5.3	24.3	10.1	0.0
歯学部	34.2	31.6	10.5	7.9	31.6	10.5	0.0
薬学部	78.6	21.4	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0
全体	43.2	31.3	9.9	7.9	22.1	14.3	0.6

# 3つのアンケート結果から

- 認知度は約5～6割
- 理数系の相談が多い
- 利用者の満足度は高い
- アドバイザーにとっても意義があると感じられている
- リピーターが6割
- 実施してほしい支援として、「レポートの書き方」「定期試験対策」「TOEIC対策」「大学の勉強の仕方」が多く挙げられている。大学での学び方に戸惑っている様子がうかがえる。
- 利用しない理由として、知らない、時間が合わない、部屋に入りにくい、などが挙げられており、改善の余地がある。

学修支援のさらなる充実を  
目指して



# 課題

- 認知度を上げる
- 時間割調整
- 学生アドバイザーの充実
- ピア・サポートルームの改善
- 運営体制の安定化
- 図書館としての戦略の欠如
- 教員との連携強化
- 図書館職員のスキルアップ  
(教育に関わる能力育成)

**SSSを含む、  
包括的な学修支援  
実施のために**

# 課題解決に向けて

## ● 図書館の戦略，大学の戦略

### ➤ 「図書館の改革の方針」の策定

- 図書館は，「教育支援に軸足を置いた図書館へ転換する」

### ➤ 「徳島大学機能強化プラン」の策定<sup>(8)</sup>

- 教育機能改革の一つとして「図書館機能の強化」が挙げられている（⑦学生支援）
- 学生のピア・サポートについても，推進していく  
（③社会変革を可能とする創造性を育む教育への質的転換）





# 意識の共有

- 図書館の学修支援を図書館のみで考えるのではなく、教員や関係部署と考えていきたい
- 徳島大学で、どんな学生を育てたいのか
- どんな風に学びたいのか

**学修のつまづきを解決する、ということだけではなく、  
アクティブ・ラーニングを推進する仕掛けを作り、  
徳島大学の教育の質向上に貢献する。**

# 図書館で学修支援を行うメリット

## ● 学生

- いつものわかりやすい場所で支援を受けることが出来る
- 他の学生の学習の様子が見え、モチベーションが上がる
- 学習に必要な文献がある
  - 授業を超えて自分の興味・関心を探究することもできる！

## ● 教員

- 図書館職員がサポートに加わることで、業務分担ができる
- 学生にとっては、職員は教員よりもハードルが低い存在？
- 新しいタイプの授業ができる可能性がある

大学図書館でなにができるか  
徳島大学附属図書館で、何ができるか

みなさんがしたいことは？

今あるものをつなげてみると・・・

# 参考文献

- (1) 科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会 「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）」 2013.8.21  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/031/houkoku/1338888.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/031/houkoku/1338888.htm)  
(参照 2014-1-17)
- (2) 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会「大学図書館の整備について（審議のまとめ）－変革する大学にあって求められる大学図書館像－」 2010.12  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm)  
(参照 2014-1-10)
- (3) 徳島大学附属図書館報告メールマガジンすだち「徳島大学附属図書館本館1階が「ラーニング・コモンズ」に生まれ変わりました！」 No.84, 2012.01.20,  
<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/m-mag/back/084/index.html>  
(参照 2014-1-10)
- (4) 徳島大学FDの定義 <http://www.cue.tokushima-u.ac.jp/fd/category/0000683.html>  
(参照 2012-11-12)

# 参考文献

- (5) 徳島大学附属図書館報告メールマガジンすだち「FD・SDセミナー「図書館を利用した学習支援」で発表しました」 No.95, 2012.12.17,  
<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/m-mag/back/095/95-6.html>  
(参照 2014-1-10)
- (6) 徳島大学附属図書館報告メールマガジンすだち「「スタディーレスキューWeeeeeK」を開催しました」 No.97, 2013.2.19,  
<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/m-mag/back/097/97-8.html>  
(参照 2014-1-10)
- (7) 吉田博ほか「大学図書館で実施する学習支援の成果と課題ーStudy support Spaceの実践からー」大学教育研究ジャーナル11号掲載予定
- (8) 徳島大学機能強化プラン <http://www.tokushima-u.ac.jp/> (参照 2014-1-10)



# 徳島大学附属図書館で できること

図書館での学習支援の企画を  
一緒に考えてください





# 図書館の特性 = 強み

- 様々な分野の学術成果が集まっていること。
- 様々な分野の学生・研究者が集まること。
- 他者が学習・研究している姿が見えること。
- 情報収集のための基盤（プラットフォーム＝図書館ホームページ）が構築されていること。
- 学習設備（パソコン, BIGPAD, iPad, 可動式机, イス, 視聴覚機器）があること。






# 図書館での学修支援

1. 学生・教員との連携
2. イベント
3. 資料活用
4. 授業開発
5. 共同研究





# 1. 学生・教員との連携

- 学生・教員による図書館資料  
展示室での企画展示
  - 学生団体の活動報告会
  - Englishスペース
  - 教員とコラボした講習会
- 



## 2. イベント

- 研究室紹介イベント

- ビブリオバトル

(本の紹介コミュニケーションゲーム)

- サイエンスカフェ

(科学について気軽に語り合う場)





# 3. 資料活用

- ブクログでブックブック交換
- 古本市
- 授業サポートナビ
- レポート・課題図書との連携





## 4. 授業開発

- 初年次教育で，文献検索講義を開催
- 学部FDなどと連携した，インストラクショナル・デザインを用いた「情報リテラシー授業」の開発
- ボランティア授業で「図書館おこし」を企画してもらう



# 5. 共同研究

- 図書館の貴重資料解読

（「蜂須賀家家臣団成立書并系図」の現代語訳，  
電子書籍出版など）

- 工学系研究室とのコラボによる，ホ  
ログラムを使った情報リテラシー教  
材開発

- 総科マルチメディア系研究室とのコ  
ラボによる「飛び出す図書館利用案  
内」作成



# 図書館での学修支援

## 1. 学生・教員との連携

(学生、教員、図書館で連携することでできる学修支援)

## 2. イベント

(図書館で行うとよさそうな学修支援イベント)

## 3. 資料活用

(図書館にある資料を活用して行うことのできる学習支援)

## 4. 授業開発

(図書館の資料や施設、サービスを取り入れた授業開発)

## 5. 共同研究

(研究室と連携するからこそできる、新たな資料の作成や教材開発)







# グループワーク (30分)

- 自己紹介
- 司会者・発表者を決める
- 企画例から1つ選ぶ or 新企画を考案
- 次のことを話し合う

◆なぜその企画をやりたいと思うのか

◆どのようにしたら実現できるか

◆どんな効果がありそうか